

## 令和6年度 2学期 終業式 校長講話



今日で2学期が終わります。2学期は色々な行事もあり、勉強も進みましたが、皆さんにとってどのような思いがありますか。

私は4月に三木北高にやってきて以来、皆さんには「自分で考えて行動できる力を高めて欲しい」という思いをもって、お話をさせてもらってきました。

具体的な行動に移すための方法の1つとして、マンダラチャートの話をしました。これをきっかけに行動を起こしたという人もいます。

さて、皆さんは三木北高校に立志・自学・自律・共生という素晴らしい校訓があるのを知っていますか。

私は、校訓には、「社会の一員として、自分の考えをしっかりと持ちながら、他人の考えも尊重できる人となって欲しい。その上で、新しいことにチャレンジできる人になって欲しい」という願いがこめられていると思っています。

始めに触れた、「自分で考えて行動できる力を高める」という表現は、今、国が子どもたちに求めている力として盛んに用いられている表現です。それを思うと三木北高校の校訓が掲げてきた方向性は、40年以上前から今の時代を見越して、先取りしたものだと感じて欲しいのです。

私は、三木北高の先生方にも、受け持ちの授業や、部活動、ホームルームなどあるゆるる場面で、校訓がめざす力を育ててほしいとお願いしています。先生方も、授業の進め方などで工夫を凝らした取組を進めてくださっています。

皆さんは本日2学期の通知表をもらいますね。皆さんの成績は、テストの点だけでなく、どれだけ自分から学習に参加できたか、他人と協働して学ぶことができたか、自分で粘り強く、先を見通して勉強に向かうことができたかということも含めてつけられています。振り返ってみてください

神戸大学の西村先生という方が『学力と幸福の経済学』という本の中で、「自己決定できる人ほど幸福度が高い」と述べておられます。

また、先日、お話を聴くことができた、リオ・パラリンピックの陸上競技で銀メダルを獲得された芦田創(はじめ)さんは、「日本の選手はコーチの言うとおりにやっている若い間は伸びるが、30代過ぎると他国に比べて力が伸びない。」と言っておられました。

自分で考えて行動することができれば、自尊感情も高まるので、幸福度も高まるではないでしょうか。そして、そのような人は、長い人生で成長を続けていくこともできるということなのではないかと思います。

あと数日で令和7年を迎えます。新年をきっかけとし、決意を新たに、心にどんなことを決めて実行していくか。じっくり考えてみてください。

令和6年 12月24日

県立三木北高等学校 校長 吉田 真治

